	科書	数学 東京書籍	科目 新数学 I ・新数学	数学   解答編 副教材	学年	1年次	単位数なし			3 単
	レポート 添削指導	9通	スクー面接	リング	メディア 視聴票	2通	74.0	and the same of th	<b></b>	20
指導	事象を数学化し		に解釈したり、数学	がいた。 がいに表現・処理を行ったりするお 、数学的論拠に基づいて判断する	技能を身につける。					
lo	日付	レポート 提出日	単元		学習内容			面接 回数	メディア(NHK高	校講座)
1	4月12日	5月8日	1章数と式 1節文字と式	を行う。 ・指数法則を理解して ・式の展開や、因数分	・文字を使った式の用語を理解し、多項式の足し算・引き算・掛け算を行う。 ・指数法則を理解して計算を行う。 ・式の展開や、因数分解の公式を理解し、適切に使用する。 ・式の展開または因数分解を工夫して行う方法を理解する。 ・平方根を含む四則演算の方法を理解する。 ・有理化の意味を理解し、分母の有理化の計算の方法を理解する。 ・分数を小数になおしたり、小数を分数に直したりして、数の意味や特徴を理解し、知識理解を深める。 ・不等号の記号の意味を確認し、理解を深める。 ・不等号を使った式の計算方法、式の性質、不等式の解の意味を理解し、不等式を解く。 ・2次方程式を因数分解や解の公式等を利用して解く。 ・関数の意味を踏まえ、グラフに示し変化の様子を調べ、関数に関する知識理解を深める。 ・2次 原数のグラフの特徴を理解し、グラフの概形を描く。 ・2の方式のないまと、グラフを平行を動させたグラフを描く。 ・平方完成により、式を基本形に変形する。				1 ガイダンス、循環 小数 2 式の展開 3 因数分解 4 式の展開と因数分 解の応用 5 実数、有理数、無 理数	
2	5月8日	5月22日	1章数と式 2節実数	・有理化の意味を理解 ・分数を小数になおし					年数 6 ルートの基本計算 7 有理化 9 1次方程式を解く 10 1次方程式・1次 不等式の応用 11 関数	
3	5月22日	6月5日	1章数と式 3節方程式と不等	る能力を養う。 ・不等号の記号の意味 式・不等号を使った式の し、不等式を解く。					12 2次関数の頂点 13 2次関数の原ラフをかく 14 2次関数の最大 値・最小値 15 2次関数のグラフ を応用する 16 2次方程式を解く 17 グラフと 2次方程 式 18 2次方程式の応用 19 2次不等式の応用 20 2次関数を情報機 器でかく	
4	6月5日	6月19日	2章2次関数 1節2次関数とそ	る知識理解を深める。 ・ 2 次関数のグラフの ・ y=ax^2のグラフを						
5	6月19日	7月4日	2章2次関数 2節2次関数の値		、最大値・最小値の求 使って2次不等式の計		<b>ే</b> .			1
6	7月4日	10月16日	3章三角比 1節鋭角の三角比		まする。 さどに応用し、計算を行 用いて、1つの三角比		2つの三角		22 鋭角の三角比の定義 23 三角比の相互関係 24 鈍角の三角比 25 三角形の面積 26 正弦定理 27 余弦定理 28 三角比と図形の計 29 三角形の形状 30 立体図形への応用 31 いろいろな高さを 割2 平均 33 分散、標準偏差	
7	10月16日	10月29日	3章三角比 2節三角比の応用	・正弦定理・余弦定理	まで拡張し、その値を はを理解し、場合によっ この角のサインの値から	て使いわけ計	算する。	1		
3	10月29日	11月13日	4章データの分析 1章データの分析	<ul><li>代表値である平均値</li><li>四分位数を求めて第</li><li>分散を求めてデータ</li></ul>	・与えられたデータを度数分布表やヒストグラムにまとめる。 ・代表値である平均値・中央値・最頻値を求める。 ・四分位数を求めて箱ひげ図を描く。 ・分散を求めてデータの散らばり度合いを比較する。 ・相関係数を求めることによって散布図との関連性を確認する。				34 散布図 35 相関関係 36 表計算ソフト 37 仮説検定 38 いろいろな統計量 39 集合 40 命題	
9	11月13日	11月27日	5章集合と論証 1節集合と論証	・命題が偽であるとき	理解する。 図を意識してその関係 に、反例を挙げること をを証明する方法とし	ができる。	-			

定義を理解することができている。

数学的に物事を解決する際に、利用する公式や証明法を理解し、それらを適当に用いることができる。

## 【思考力・判断力・表現力】

このカーカーの なべん 三角比を用いて図形の構成要素間の関係を表現することができる。 図形の性質や計量について論理的に考察することができる。 2次関数によって事象における関数関係を表現することができる。

データを正確に判断する手法を選択して使用し考察を加えることができる。

【主体的に学習に取り組む態度】

数学を積極的に利用し、問題解決をしたり、問題を評価・改善ができる。

〇上記の評価規準に基づき、レポート及び課題等の提出物の状況、スクーリングに取り組む姿勢及びスクーリングに基づく成果、前期・後期2回の試験結果を総合的に判断し

○【知識・技能】【思考力・判断力・表現力】【主体的に学習に取り組む態度】の3つの観点ごとに、それぞれ上位からA、B、Cの三段階で評価を行い、その観点別評価に基 づき、総合的な評価を5段階(最上位を5とし、最下位を1とする)で評価する。 単位の修得の認定に関する基準

観点別評価に基づいて総合的に評価された5段階評価のうち、 $5\sim2$ の評価を受けた者に対して、科目に配当された単位数の修得を認める。